

	一般的名称	報告の概要
246	メトトレキサート	原発性精巣リンパ腫患者24例を対象としたコホート研究において、ドキソルビシンベールの化学療法/髄腔内メトトレキサート/放射線療法により3例が死亡した。
247	ケトプロフェン	光パッチテスト陽性者において、ケトプロフェンが光アレルギー抗原であることが示唆された。
248	アセトアミノフェン	アセトアミノフェンの常用者において、多発性骨髄腫の発症リスク上昇が示唆された。
249	ブスルファン	血液がん患者130例に対する1日1回静注ブスルファンとフルダラビン併用移植前処置レジメンにおいて、ブスルファンのAUCが6000 μ M $\cdot$ min/日以上に上昇した群において推定全死亡率の低下、非再発生存率と非増悪生存率の低下が認められた。
250	ブスルファン	幹細胞移植を実施した470例において、血漿中濃度によるブスルファンの用量調節群で静脈閉塞性肝疾患や出血性膀胱炎の発症が減少した。
251	アルプロスタジル	動脈管依存性先天性心疾患のある新生児でプロスタグランジンE1を2週間以上長期投与した9例において、一時的な接触困難、腹部膨満、偽バーター症候群、皮質性過骨症などの重度の有害事象が見られた。
252	アセトアミノフェン	非麻薬性鎮痛薬を常用している男性は、高血圧になるリスクが高いことが示唆された。
253	アセトアミノフェン	ワルファリンを投与されてINRの安定している患者にアセトアミノフェンを併用させたとこ、INRが上昇した。
254	ジクロフェナクナトリウム	NSAIDsとSSRIの併用により、重篤な上部消化器系副作用の発症率上昇が示唆された。
255	塩酸クレンブテロール	妊娠期間中の喘息治療薬の使用により、妊娠合併症の発症リスクが高まり帝王切開術の割合が高くなることが示唆された。
256	メシル酸デラビルジン	ブプレノルフィン/ナロキソンで維持されているオピオイド依存のHIV陰性ボランティア20例を対象とした薬物動態試験において、デラルビシン併用により、ブプレノルフィンの血中濃度を増加させ、エファビレンツはブプレノルフィンのAUCを低下させた。
257	ピラゾロン系解熱鎮痛消炎配合剤(4)	アセトアミノフェンの常用者において、多発性骨髄腫の発症リスク上昇が示唆された。
258	アスパルテーム含有一般用医薬品	妊娠中にアスパルテームを投与された雌ラットから生まれた仔に継続してアスパルテームを投与したところ、リンパ腫・白血病発症率が用量依存的に増加し、雌での乳癌発症率が高まることが示唆された。
259	ホリナートカルシウム	ステージII,IIIの結腸癌患者2492例を対象として、術後アジュバント療法としてのweeklyフルオロウラシル/ロイコボリン療法とweeklyフルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン療法を比較するPhaseIII試験において、腸障害により前群で5例、後群で1例死亡した。また、化学療法開始後60日以内の死亡例は全体で28例であった。
260	ウロキナーゼ	ウロキナーゼによる治療を受けている脳梗塞患者294例を対象とした追跡調査において、14例に重篤な脳出血が認められた。
261	塩酸トリメキノール	妊娠時に抗喘息薬の使用経験のある女性において早産のリスクが増加し、また生まれた乳児は、低体重または在胎期間中の未熟リスクが増加することが示唆された。
262	プレドニゾン	真菌乾癬前の低用量のプレドニゾン投与または真菌感染後の高用量のプレドニゾンは死亡原因と関連があることが示唆された。
263	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌患者53例を対象としたフルオロウラシル/ロイコボリン/オキサリプラチン/ペパシズマブ併用のPhaseII試験において、不整脈と詳細不明で2例が死亡した。